

## 「女性の健康からみた

# 母子保健のあり方に関する研究」

東京大学

分担協力者 武 谷 雄 二

要約：妊娠・分娩・産褥における生理学的及び病理学的な身体上の変化は、女性の生涯にわたる健康と密接な関連を有することが様々な事実により推察される。本研究の目的は、妊娠・分娩の経験の有無や妊娠・分娩時にみられた異常が女性の各ライフステージにおける健康とどのような関連を有するかを解明することである。そこで、(1) 思春期における各種障害、(2) 虚血性心疾患を代表とする成人病、(3) 尿失禁・腰痛症・子宮脱などの中有更年期の好発疾患がそれぞれ妊娠・分娩・産褥とどのような関連を有するかをレトロスペクティブな視点から明らかにすることとした。

今年度は、(1) 思春期障害と妊娠・分娩・産褥との関連を検討するため、産褥婦人を対象とした思春期障害に関するアンケート調査と、思春期外来患者を対象とした妊娠分娩産褥に関するアンケート調査を計画し、調査形式の設定及び質問用紙の作成を行った。アンケート調査の形式の設定及び質問用紙の作成は終了し、現在はアンケート調査施行中である。(2) 成人病と妊娠・分娩・産褥との関連を検討するため、二つの対象群、即ち、成人病を発症し入院治療を受けた女性患者と保健所において実施される成人病健診受診女性、とに対する妊娠分娩歴に関するアンケート調査を計画した。急性心筋梗塞にて入院治療した女性患者を対象としてアンケート調査を行い、急性心筋梗塞患者の産科合併症としては妊娠中毒症(12%)・流産(20.0%)・早産(16.0%)・巨大児(20.0%)等が認められ、特に子宮内胎児発育不全は32.0%と高率であった。また、保健所で行われている成人病検査の実態を調査し、アンケート調査の対象とその様式に関する方針を決定し、アンケート用紙の作成を行った。(3) 尿失禁と妊娠・分娩・産褥との関連を検討するために、腹圧性尿失禁を主訴として外来を受診した中高年女性の尿失禁発症時期を調

査するとともに、産褥一ヶ月健診を受診した褥婦を対象に妊娠分娩歴・尿失禁の発症時期とその程度などに関するアンケート調査を行い、妊娠分娩産褥と尿失禁との関連につき検討した。さらに、産褥一ヶ月に尿失禁を認めた例については、2ヶ月間の治療を尿失禁にて外来受診した中高年女性の過半数において、尿失禁は妊娠分娩時から持続しており、尿失禁の発症に妊娠分娩が強く関わっていることが示唆された。また、産褥一ヶ月健診時には22.8%に尿失禁を認め、その時期の尿失禁は経産回数や分娩方法と関連があると考えられた。また、産褥体操は尿失禁の治療に有効である可能性があり、リスクファクターを有する褥婦における産褥体操の重要性が示唆された。

見出し語：妊娠・分娩・産褥、思春期障害、成人病、尿失禁、リスクファクター

研究方法及び結果：

(1) 思春期障害と妊娠・分娩・産褥

第一のアンケート調査は、分娩後入院中の産褥婦人を対象として、被験者からの同意を得た後に、思春期における月経障害の有無・産婦人科受診歴の有無・体重の変動・既往歴・その当時の社会的環境・嗜好・文化・被験者の性格などについて質問を行うものであり、産科的データにより分類された正常分娩群と異常分娩群との2群間でその回答結果を比較検討する。第二の調査は、1980年から5年間の間に思春期外来を受診した患者を追跡調査し、妊娠を経験した症例に対して不妊症治療歴・妊娠分娩歴・新生児経過・授乳などに関する質問を行い、思春期における各種障害と妊娠分娩産褥の異常との関連を検討するものである。

アンケート調査の形式の設定及び質問用紙の作成は終了し、現在はアンケート調査施行中である。

(2) 成人病と妊娠・分娩・産褥

急性心筋梗塞にて入院治療した70名に対して、一般健康状態・妊娠分娩歴・家族歴等に関するアンケート調査を試み、28通の回答が得られた。糖尿病・高脂血症・高血圧の合併が高率に認められた(それぞれ57.1%、39.3%、53.6%)。40才未満で高血圧を発症したものでは心筋梗塞発症年齢が56.7±3.5才であり、高血圧非合併例の63.4±5.0才に比し有意に低値を示した。産科合併症の既往としては妊娠中毒症(12%)・流産(20.0%)・早産(16.0%)・巨大児(20.0%)等が認められ、特に子宮内胎児発育不全は32.0%と高率であった。

保健所における調査に関しては、東京都中野区と墨田区の保健所を訪問し、実施されている成人病関連の健診につき調査し、本研究において行われるアンケート調査が可能であるかにつき検討した。さらに次年度のアンケート調査に備えて妊娠分娩に関するアンケート用紙を作成した。成人病に関する問診・各種臨床検査が充実しており、受診者数は年間1000名を超え要医療と判定されるものも200名に達することが予想されるため、東京都墨田区における誕生日健診が今回のアンケート調査の対象として適当であると考えられた。妊娠・出産回数、胎児の発育、早産の有無、妊娠中の入院の有無、妊娠中毒症の有無、妊娠中の体重変化等を主要な質問事項とするアンケート用紙を作成した。

### (3) 腹圧性尿失禁と妊娠・分娩・産褥

腹圧性尿失禁を主訴として外来を受診した中高年女性65例の尿失禁発症時期を調査するとともに、産褥一ヶ月健診を受診した褥婦を対象に妊娠分娩歴・尿失禁の発症時期とその程度などに関するアンケート調査を行い、妊娠分娩産褥と尿失禁との関連につき検討した。さらに、産褥一ヶ月に尿失禁を認めた56例については、2ヶ月間の治療を試みその効果について検討した。

腹圧性尿失禁を訴えた65例の中高年女性の内、34例(52.3%)は分娩時より持続、29例は分娩後数年以上経てから発症、7例は発症時期不明であった。一ヶ月健診時の褥婦246例からアンケート調査の回答が得られ、妊娠中に尿失禁を経験した女性は149例(60.6%)であり、産褥一ヶ月健診時にまだ尿失禁があるのは56例(22.8%)であった。一ヶ月健診時に尿失禁を認めたのは、1回経産婦のう

ちの14.4%であったが、2回以上の経産婦では30%以上と高率であった。経膈自然分娩・帝王切開例ではともに約20%が一ヶ月健診時に尿失禁を認めたが、吸引分娩では42.9%と高率であった。産褥体操を指導した41例中36例(87.7%)で尿失禁の改善が認められたが、無治療12例中改善したのは7例(58.3%)であった。

考察:本研究は、女性の各ライフステージにおける健康管理を、その時点での健康状態のみならず、その後の生涯にわたる健康を視野におきながら考えていこうとするものである。妊娠・分娩・産褥をキーワードとして、女性の生涯の健康について検討した研究は従来ほとんど行われていない。従って、方法論的に苦慮する部分が多く、今年度は研究方法の設定に多くの時間が費やされた。思春期障害に関するアンケート調査はプライバシーに触れる部分が多いこと、思春期障害患者に対する追跡調査は転居などにより困難となるケースが少なくないこと、成人病に関するアンケート調査は調査対象数を確保することが難しいことなど多くの難問を抱えながらも、研究方法の設定は終了し、来年度の成果が期待されることである。

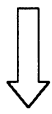
心筋梗塞に関しては、子宮内発育遅延との関連を示唆する興味深い結果が得られた。腹圧性尿失禁については、中高年女性の尿失禁は妊娠分娩時から持続していること、産褥一ヶ月健診時には4人に一人の割合で尿失禁を認め、経産回数や分娩方法と関連があること、産褥体操は尿失禁の治療に有効である可能性があることが示唆された。

腹圧性尿失禁以外のアンケート調査は来年度も継続され、さらに新たに慢性腎炎および腰痛症と妊娠・分娩・産褥との関連に関する調査が開始される予定である。本研究で得られる結果は、思春期における健康管理、成人病発生予防のためのハイリスク妊産褥婦の検出、中高年好発疾患予防のための分娩・産褥管理など、女性の生涯にわたる健康管理プログラムの作成ために貴重な資料を提供するものと期待される。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:妊娠・分娩・産褥における生理学的及び病理学的な身体上的変化は、女性の生涯にわたる健康と密接な関連を有することが様々な事実により推察される。本研究の目的は、妊娠・分娩の経験の有無や妊娠・分娩時にみられた異常が女性の各ライフステージにおける健康とどのような関連を有するかを解明することである。そこで、(1)思春期における各種障害、(2)虚血性心疾患を代表とする成人病、(3)尿失禁・腰痛症・子宮脱などの中有更年期の好発疾患がそれぞれ妊娠・分娩・産褥とどのような関連を有するかをレトロスペクティブな視点から明らかにすることとした。

今年度は、(1)思春期障害と妊娠・分娩・産褥との関連を検討するため、産褥婦人を対象とした思春期障害に関するアンケート調査と、思春期外来患者を対象とした妊娠分娩産褥に関するアンケート調査を計画し、調査形式の設定及び質問用紙の作成を行った。アンケート調査の形式の設定及び質問用紙の作成は終了し、現在はアンケート調査施行中である。(2)成人病と妊娠・分娩・産褥との関連を検討するため、二つの対象群、即ち、成人病を発症し入院治療を受けた女性患者と保健所において実施される成人病健診受診女性、とに対する妊娠分娩歴に関するアンケート調査を計画した。急性心筋梗塞にて入院治療した女性患者を対象としてアンケート調査を行い、急性心筋梗塞患者の産科合併症としては妊娠中毒症(12%)・流産(20.0%)・早産(16.0%)・巨大児(20.0%)等か認められ、特に子宮内胎児発育不全は32.0%)と高率であった。また、保健所で行われている成人病検査の実態を調査し、アンケート調査の対象とその様式に関する方針を決定し、アンケート用紙の作成を行った。(3)尿失禁と妊娠・分娩・産褥との関連を検討するために、腹圧性尿失禁を主訴として外来を受診した中高年女性の尿失禁発症時期を調査するとともに、産褥一ヶ月健診を受診した褥婦を対象に妊娠分娩歴・尿失禁の発症時期とその程度などに関するアンケート調査を行い、妊娠分娩産褥と尿失禁との関連につき検討した。さらに、産褥一ヶ月に尿失禁を認めた例については、2ヶ月間の治療を尿失禁にて外来受診した中高年女性の過半数において、尿失禁は妊娠分娩時から持続しており、尿失禁の発症に妊娠分娩が強く関わっていることが示唆された。また、産褥一ヶ月健診時には22.8%に尿失禁を認め、その時期の尿失禁は経産回数や分娩方法と関連があると考えられた。また、産褥体操は尿失禁の治療に有効である可能性があり、リスクファクターを有する褥婦における産褥体操の重要性が示唆された。